

第6学年東組 道徳科学習指導案

「自分の心に誠実に [A 正直, 誠実]」

学習指導者 山本 健太

1 学習指導要領に示された本時に関わる目標及び内容等

1 道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

2 内容

[第5学年及び第6学年]

誠実に、明るい心で生活すること。

2 教材『のりづけされた詩』(学研:『みんなの道徳 6年』)のあらすじ

主人公の和枝のクラスでは、学級文集をつくることになった。詩をつくるのが得意な和枝は、仲良しの光子と詩をのせる約束をした。しかし、和枝は詩がなかなか思いつかず、さらに、先に書き上がったと明るく弾む光子の声を聞いて不安になる。そんな時、まさに自分が書こうとしている内容にぴったり合う詩を見つけ、焦りからその詩の一部を写してしまう。文集係の光子から「いい詩ね。さすが和枝さん」と言われ、和枝は胸がしめつけられる思いをし、悩むのである。しかし、和枝は先生に打ち明ける決心をする。その話を伝え、先生の「そうか、よく話してくれたね。さて——」という言葉聞き、和枝はあることを行動に移すのである。そして、できあがった文集の和枝のページは、1枚1枚のりづけされた別の詩が貼られていたのだった。

3 メタ認知・教科に関する子供(34名)の実態

導入(課題設定以前) ……めあてをクラス全体で共有する前に、今日することを自分で考える習慣が身に付いてきている子供が多い(31名)。

展開(課題解決中) ……自分の考えと比べながら、友達のを聞くことができていると感じている子供が多い(32名)。

自分の考えを書いて伝える事が得意だと感じている子供(16名)と、話して伝える事が得意だと感じている子供(14名)、どちらも得意と感じている子供(4名)がいる。

A児は、自分の考えと比べながら、友達のを聞いていないと感じており、書いて考えを伝えることに苦手意識がある。

終末(課題解決後) ……学習を振り返る際、新しく分かったことが何かを確かめられていないと感じている子供がいる。(5名)

内容項目「正直・誠実」に関わる質問紙の回答…「今まで嘘をついたり、正直に言えなかったりして、心の中がもやもやした経験はありますか」(はい23名、いいえ11名)

具体的なエピソード

【正直、誠実にできなかったこと】…「勉強が終わっていないのに、面倒くさいので終わったと言ってしまった」「自分がやったのに、人のせいにしてしまった」「悪いことをしてしまった時に、黙ったままにってしまった」「けんかで自分が先に叩いたのに、自分でないと否定したことがある」「友達にテストの点を聞かれて100点と嘘をついてしまった」等。

【正直、誠実にできたこと】…「お皿を割ってしまった時に、正直に謝ることができた」「ペンを借りたままにしていたことを正直に打ち明けることができた」「友達の大切なものを壊してしまった時に、正直に謝った」等。

4 目指す子供の姿

【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

自分自身に対する誠実さが自分の内面を満たすという理解を基に、誠実に行動する際に大切にしたい気持ちについて友達と対話しながら、物事を多面的・多角的に考えることを通して、正直、誠実の道徳的価値の理解を深め、誠実な生き方を実現していこうとする思いや願いを高めている。

人は、自分の過ちや失敗を、嘘をついたりごまかしたりしてやり過ぎそうとしてしまうこともあるだろう。しかし、そのことが、かえって自分自身の中に後悔や自責の念、強い良心の呵責などを生じさせてしまうものである。だからこそ正直、誠実に振る舞うことが、内面を満たし、明るく生活することにつながるのである。子供たちは、『手品師（第5学年）』の学習や生活経験の中で、ある程度、正直、誠実の価値について理解してきているだろう。その理解を基に、本実践では、主人公の和枝が自分の過ちを認め、誠実に行動できた時の気持ちについて対話していくのである。例えば「僕は友達に悪いことをしてしまった時に、言い出すのが難しかった経験があるけれど、やっぱり、友達の『信頼』を失いたくない気持ちがあれば正直に言えると思うよ」「友達の『信頼』も大切だね。私は、嘘をかかえたまま卒業しても嫌な思い出になると思うから、嘘をついた自分を『素直』に受け入れてすっきりしたいという気持ちが大切だと思うよ」などと対話していく。このような対話を通して、誠実に行動することについて多面的・多角的に考え、誠実な行いが他者からの信頼につながることや、自己を向上させること、自信にもつながり、明るい心で伸び伸びとした生活が実現できるのだということなど、道徳的価値の理解を深めていくのである。同時に、誠実に実行することの困難さを実感して人間理解を深めたり、自分と異なる考えに触れて他者理解を深めたりしていくのである。そして、改めて正直・誠実の価値理解を基に自己の生き方について考え、自分の課題に気付いて改善しようと思いや、自分のよさを大切にしながらさらに誠実に生きたいという願いを高め、他の人の受け止めに過度に意識することなく、外に向けて発揮しようとする子供を育てたい。

5 主張点

（1）導入（課題設定以前）の働きかけ【私の問いタイム】

教材文を読んだ後、事前の質問紙で聞き取っておいた「嘘をついてしまったり、正直に言えなかったりして、心の中がもやもやしてしまった経験談」を補助黒板に提示し、教材の場面とつなぐ。さらに、補助黒板に一覧できるようにしておいた、「教材を読んでみんなと考えたいこと」の中から、中心価値との関連があるものを基に、「誠実に生きるとはどういうことだろう」という問いを全体で共通理解しながら目当てとして設定していく。そうすることで、各自の問いとの関連を意識できるようにする。

（2）主発問と展開（課題解決中）の働きかけ【見比べタイム・筆談シート】

主人公の和枝が人の詩の一部を使用してしまった不誠実な態度を悔い改め、先生に打ち明けようと決心し、自分の詩をのりづけする場面が、本教材の中心場面である。その場面の主人公の心情に共感させた後、『誠実に行動するためには、どんな気持ちが必要だと思いますか』と主発問を行うことで、「友の信頼を失いたくない」や「自分に誇りをもって生きたい」、「自分の嘘にけじめを付けたい」などの気持ちを表出させたい。そして、それらの考えを分類しながら板書に位置付け、「どの考えが自分の考えに近いか」選択することを通して、再度、道徳的価値を自分との関わりにおいて見つめられるようにする。その際、ペアで選択した考えやその理由を質問し合い、「筆談シート」に各自の考えを交互に書かせることで、対話後、記述されている友達の考えを目で見て振り返りながら、考えやその理由の違いに気付いて他者理解が深まるようにする。

（3）終末（課題解決後）の働きかけ【鳥の目タイム】

「これまでできていたこと（自分のよさの理解）」「これから頑張りたいこと（自分の課題の理解）」「心に残った友達の考え（他者理解）」「実行の難しさ（人間理解）」の四つの観点から選択し（複数選択可）、自己を鳥瞰的に見つめて振り返ったことを、ノートに記述する時間を設定する。

6 本時の学習

ね
ら
い 誠実に行動しようとする際に必要な気持ちについて対話することを通して、自分自身に正直、誠実に生きようとするのが他者の信頼や自己の向上につながることを理解し、その理解を基に、自分の生き方について考え、これから正直、誠実に行動しようとする態度を養う。

学習活動		主な子供の意識		
導 入	1 目当てを設定する。 【私の問いタイム】	<p>私は和枝さんのように、正直に言い出せなくて悩んだ経験があるよ。</p> <p>和枝さんは、のりづけされた自分の詩を見ながら、正直に生きること（誠実さ）について考えていたのかな。</p> <p>僕たちも「誠実」に生きるとは何か、改めて考えていきたいな。</p>		
	誠実に生きるとはどういうことだろう			
展 開	2 正直に言い出せない時の和枝の気持ちを考える。	<p>和枝さんも初めから誠実に行動できたわけではなかったよね。</p> <p>嘘をついたことがばれたら、友達から嫌われると思ったのかな。僕も同じような経験があるよ。</p> <p>それでも和枝さんは先生に言って、あえて「のりづけ」しようと決心したんだね。どんな気持ちがあったから、誠実に行動することができたのだろう。</p>		
	3 和枝が誠実に行動した時の気持ちについて話し合う。 【見比べタイム・筆談シート】	<p>A：嘘をついたまま生きていて、いつか嘘がばれた時に友達を裏切り、信頼を失いたくない。(信頼)</p>	<p>B：自分の力で書いていない詩を、そのまま友達に褒められても嬉しくないと感じたと思うよ。(誇り)</p>	
	<p>C：詩を変えずに卒業したら、心が晴れないままだから、自分の嘘を素直に正したいと考えたと思うよ。(素直)</p>			
終 末	4 本時の学習を基に、自分の生き方について振り返る。 【鳥の目タイム】	<p>自分だったら、誠実に行動しようとするとき、どの気持ちが大きくなるかな。</p> <p>僕はCの素直さかな。後悔したまま生きていきたいからだよ。</p> <p>私はAの信頼を大切にするよ。自分に正直な私を、必ず友達が認めて、信頼が高まってくると思うからだよ。</p> <p>正直に言うだけでなく、一枚一枚のりづけしたことで誠実さが伝わるね。</p> <p>今までやこれからの自分の生き方はどうだったかな。</p>		
	<p>今まで、誠実に生きてきたかな。</p> <p>今までも正直にできていたと思うよ。でも、人間だから、自分の失敗を認めることが難しいと感じる時もあるけど、乗り越えたいね。</p> <p>自分の経験をしっかり振り返っていていいね。私も友達から信頼されるように行動していきたいな。</p>		<p>これから、誠実に生きれるかな。</p> <p>〇〇さんが言ったように、自分の嘘が友達にばれた時、気まづくなったことがあったよ。認めてもらえるように行動していきたいな。</p> <p>今まで正直な行動ができていたのがいいね。僕も失敗を素直に認めて、自信をもって生きたいな。</p>	
	自分にできることを精一杯やって、誠実に生きていこう。			
	<p>自分の過ちを認めて誠実に行動することが、他者への信頼や自己の向上につながるという理解を基に、自己の生き方を考え、自分の課題やよさに気付いて、正直、誠実な行為をしようと思いを高めている。</p> <p style="text-align: right;">【方法：発言・様相・記述】</p>			

7 働きかけの詳細

～導入（課題設定以前）～ **学習活動1** 【私の問いタイム】

教材の範読後、事前の質問紙で聞き取った「嘘をついてしまったり、正直に言えなかったりして、心の中がもやもやしてしまった経験」をイラストと共に示し、教材の場面と実生活の場面とを繋いでいく。その際、主人公が正直に打ち明けた場面や誠実にのりづけする場面を挿絵で示し、誠実（正直）に生きることの大切さについて意識させる。そして、右に示している事前読みの段階での子供たちの問いから、誠実（正直）につながる問いを共通理解しながら、目当てを設定していく。さらに自分の問いと目当てとの関連を問うことで、「誠実」な生き方について改めて考えていくことへの妥当性を高めたい。

- ① どうして、友達からほめられたのには、胸がのりつけられたのだから？
- ② なせ和枝さんは先生に打ち明けたのだから？
- ③ 先生に打ち明けた時、先生の気持ちって？
- ④ 一枚一枚のりつけていた時、和枝さんはどんなことを考えていたのだから？
- ⑤ のりつけされた時にはどんな気持ちがあったのだから？
- ⑥ 正直について改めて考えていく。

【問いを集約（補助黒板）】

～展開（課題解決中）～ **学習活動2** **学習活動3** 【見比べタイム・筆談シート】

まずは、人の詩を勝手に用いてしまったことを正直に言い出せなかった時の和枝の気持ちを考えていく。その際、カッコいい詩を作らなければと思いつつも詩が思いつかず不安感が高まることや、偽りの自分を友達に褒められれば褒められるほどさらに罪悪感が高まること表出させる。それらを板書上の「心の綱引き」の右側に位置づけ、不誠実さに心が引っ張られていく様相を視覚的に表していく。

次に、『誠実に行動するためには、どんな気持ちが必要だと思いますか』と、主発問を行うことで、「A：友達の信頼を裏切りたくないという気持ち」や、「B：自分に嘘をつきたくない気持ち」、「C：素直に失敗を認める気持ち」などと、不安感や罪悪感に打ち勝つための様々な考えを表出させる。それらを「心の綱引き」の左側に位置づけた後、子供たちと共通理解しながらキーワードにして分類し、「A～C」などの記号を付けることで選択しやすくしておく。そこで、「どの考えが一番自分の考えに近いですか」と選択を促す発問を行う。そして、ペアで1枚の「筆談シート」に各自が選んだ記号を書かかせて、考えが同じかどうかを確かめさせることで、選択の理由を聞きたいという対話の意欲を高める。口頭で相手に考えの理由を質問したら、それに対する答えを「筆談シート」に交代で記述していくようにする。また、口頭で答えた後に、キーワードだけを書き残すだけでもよいことを伝えておくことで、A児のように文章で考えを伝える事に苦手意識のある子供も、抵抗感なく取り組めるようにしておく。筆談によるペア対話後、「筆談シート」に残っている対話の過程を目で見たり振り返りながら、考えが深まったり、変化したりしたきっかけとなった友達の意見を見付けさせ、全体対話で共有していく。そうすることで、正直・誠実について自分と異なる考えに触れて他者理解を深められるようにする。また、子供がシートの中の短い言葉のみの発言でとどまっている場合には、その言葉を選んだ理由や、発言した子供の体験を語らせるように切り返しの発問を行い、その言葉の背景にある思いに迫れるようにしたり、実行する難しさを表出させたりして、他者理解・人間理解をさらに深められるようにする。

A 信頼	C 素直
もし、他人の詩だとしたら、友達からの信頼がなくなってしまうからだよ。	(どうして信頼が大切なの?)
(素直さだと思っただけはなぜ?)	この重苦しい気持ちを抱えたまま、大人になんか(ない)がだよ。
正直に言ったから、信頼は変わらない。	(実際にどういう経験ある?)
(素直になれずにもやもやしていることは?)

【対話の過程を時系列で視覚化する筆談シート】

～終末（課題解決後）～ **学習活動4** 【鳥の目タイム】

本時の板書を見返してから、自己を鳥瞰的に見つめ、誠実な生き方について振り返っていく。その際、事前の質問紙で聞き取った経験談を再度紹介し、実生活における自分の課題やよさに目が向くようにする。その上で、右に示す四つの観点から選択して（複数選択可）、ノートに振り返りを記述していく時間を設定する。そして、自分の考えが深まった部分に赤線を引かせ、その部分についてペアと対話する中で、自分の課題に向き合ったり、前向きに努力しようとしていたりしていることを称賛し合っていく（相互評価）。その後、友達から認めてもらって、さらに自分の課題を改善していこうと思いを高めたことや、誠実に生きるために実践していこうと思いを高めたことなどを中心に全体対話を行い、実践意欲が高まるようにしたい。

- ① 友心に残った友達の意見
- ② 難実行が難しいと感じたこと
- ③ 課題（これは自分の課題）
- ④ 良（これも自分の良）

【四つの観点】